

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		共生型デイサービスGottcha		公表日		令和8年4月17日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7	2	様々な状況に応じて移動することのできる場所がある。感覚過敏のある児童には、視覚刺激を抑えた個別スペースを用意し、安心して活動できる環境を整えている。	他利用者様と接触することがないように注意する。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7	2	フロアにいる職員で対応することができている。利用定員に対して基準を満たす職員数を配置し、支援の質と安全性を確保するようにしている。	曜日や時間帯により手薄になる時がある。送迎対応と室内支援が重なる時間帯は職員の負担が大きくなっている。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6	3	事業所内はバリアフリー化されている。危険物の管理や動線の確保を徹底することで、安全に過ごせる環境を整えるようにしている。	子供にとってわかりやすい構造となるよう、必要な情報をより見やすく整理することで安全に生活出来るような配慮が必要と考える。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6	3	毎日の清掃と消毒を行い、子どもが安心して過ごせる清潔な環境を維持するようにしている。通路等には障害物を置かないように徹底している。	多くの方が生活されている為、様々な刺激がある。刺激が多すぎることあるので心地よく過ごせる環境にしていく環境作りに配慮が必要。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	9	0	不安が強い場面や感情が高ぶった際には、個別スペースで気持ちを整えられるよう、柔軟に利用できる体制を整えている。	他利用者様の状況により部屋が空いていないことがある為、柔軟に対応できる方法の検討が必要。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	5	4	業務後のミーティングや毎月1回開催している全体会議にて支援方法や業務に関する検討を行っている。	一定の職員しか関わることが出来ていない。また障害に対して職員の理解度が一律で無い為、適切な支援を行うことが課題となっている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	4	年度ごとに保護者向け評価表を実施し、保護者の意向や要望を把握する機会を設けている。普段は送迎時やノートを活用し意向の把握に努めている。	保護者の意向が把握できていない職員もいる為、全体ミーティングなどを行い、全職員が周知できる体制作りを目指している。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8	1	月1回開催する全体会議で職員の意見を把握し、支援方法の見直しや環境整備などの改善を行い、より良い支援につなげるようにしている。	フロアスタッフの意見は把握し反映させているが、全職員が同じように支援の改善方法を理解できているかが課題である。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	4	5	外部評価は未実施であるが、職員会議やミーティングで支援内容や運営の振り返りを行い、内部での改善に取り組んでいる。	内部での振り返りは行っているものの、外部の専門的な視点を取り入れた改善が十分ではない。今後は外部評価も検討していく。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	8	1	毎月法定研修を行い、また事業所内研修、外部研修等にも参加している。	定期的に研修を実施し、職員のスキルアップに繋げることができていると考える。	
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7	2	支援プログラムは個々に合ったものが作成されている。	支援プログラムを把握していない職員もいるため、会議や回覧等により把握するよう努める。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	7	2	児童の様子や支援に対する反応等を分析し、保護者との情報共有を行い支援計画を作成している。	情報収集は行っているものの、ニーズや課題の分析が十分に深められないことがあり、改善が必要と感じている。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6	3	ミーティング等により、個々に合わせた支援を行うことができる検討が行われている。	全職員が共通理解できている訳ではないので、共通理解する為の工夫が必要である。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5	4	放課後等デイサービス計画は職員会議やミーティングで共有し、支援方針や目標を全員が理解した上で支援にあたっている。	計画の共有は行っているものの、忙しい時間帯には内容の確認が不十分になることがあり、共有方法の工夫が課題である。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6	3	アセスメントツールを作成し、学校の先生へ記入依頼を実施。その内容も加味しながら支援に活かしている。	保護者に対してアセスメントツールを用いたニーズの把握が十分ではない為、聞き取りの中でツールを活用していく。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5	4	支援内容は個々に合わせたものが設定され、実施することが出来ている。	支援内容を把握出来ていない職員もいる為、共通理解出来る方法を考える必要がある。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5	4	ミーティング中に議題として挙げ、活動プログラムの立案、変更を行っている。	全職種でより多くの職員が参画できる体制を構築し、幅広く意見を取り入れていく。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
の提供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7	2	短時間の中で少しでも内容を変化させている。日々変化があるように心掛けている。	活動プログラムを増加させていく。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6	3	個別で集中できる活動は出来ている。	対象者1名の為、集団活動は行われていない。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6	3	毎朝のミーティング時に業務分担の把握を行うと共に、前日までの支援内容で変更すべき点について再周知を行っている。	支援開始前に業務分担の把握は行っているが、送迎に出てしまっている職員への周知方法が課題となっている。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7	2	業務終了後のミーティングにて振り返りや支援内容、申し送り事項などについて検討を行うようにしている。	出勤していない職員や送迎に出てしまっている職員に対しては記録情報を残し、情報共有を行っている。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7	2	全職員が閲覧できる情報共有シートへの記入、入力を徹底している。	記録用紙に全ての情報を記録することが出来ない部分もある為、正確な情報と記録するように努めていく。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8	1	毎月モニタリングを実施し、支援相談員へ提出している。保護者へのモニタリングは送迎時に把握するように努めている。	モニタリング以外でも保護者の方と支援方法について確認し、支援の参考にしている。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	6	3	児童の興味や特性に合わせ、個別のニーズに応じて活動内容を調整して活動を選択・調整し、無理なく参加できるよう支援している。	一部の職員には、活動の意図やねらいが十分に共有されないことがあり、情報共有の方法を見直す必要がある。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	8	1	児童がスケジュールを決め、それに沿って活動を行っている。	児童がスケジュールを決めることが出来ない場合は支援を行っていく。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8	1	支援に入っている現場スタッフが参加している。	今後、普段関わりのあるスタッフも参加出来るようにしていく。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	8	1	学校支援会議などへ参加している。また、電話等で情報共有を行い、学校での様子を踏まえた支援につなげている。	主治医とすぐやりとりを行うことが出来ないことが多々あるので、医療機関との連携がよりスムーズな情報共有の方法を検討する必要がある。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	9	0	行事予定の把握や下校時間の把握など行っている。また、送迎時に保護者の方から情報交換を行っている。	毎日の変化を送迎時に確認することが出来ている。学校からの情報が、送迎職員から全体に伝わっていないことあることが課題である。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	6	3	中部療育園などと連携をとり、情報共有を行うように努めている。	現在、保育所などとの情報共有の機会はない。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	7	2	現在、そういった方がおられないが、必要があれば情報提供を行う。	放課後等デイサービス利用者での卒業生がまだおられない。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	7	2	地域の児童発達支援センターと理学療法士、看護師を中心に必要な情報の収集に努めている。	今後も引き続き必要な際は、地域の児童発達支援センターと連携を図っていく。また障がい児に特化した研修等も取り入れていく。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	5	4	他施設と活動する機会はないが、共生型である為年齢の利用者様との交流がある。また同じ施設の障がい児の方とも関わりがある。	地域と交流する機会がコロナ以降遠ざかってしまっている。交流の幅を広げるための情報収集や調整が必要。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	4	5	現在、参加することが出来ていない。	開催通知の把握が出来ていないこともあり、開催通知等あれば積極的に参加していきたい。
保護者へ	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	9	0	利用時や送迎時などで共通理解を図っている。また電話で保護者の方に情報を伝えたりし共通理解を図るようにしている。	保護者からの聞き取り内容が一部の職員にしかなかったことがあり、共有体制の改善が必要である。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5	4	保護者の方へのペアレントトレーニングは行っていが、子どもの支援内容を家庭でも活かせるよう、保護者と共有し、家庭と事業所が同じ方向に関われるよう努めている	保護者の方からの相談等があった場合に対応していく。ペアレントトレーニングの知識の向上を目指す。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8	1	運営規程は施設内掲示を行っており、支援内容等は重要事項説明書等で説明を行っている。	今後も保護者の方に理解して頂けるように懇切丁寧な説明を行っていく。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	9	0	支援会議などで子供やご家族様の意向確認を行っている。	子供や保護者の意志を踏まえ、支援に繋げる事が出来ている。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	9	0	保護者と対面しながら説明を行うようにしている。	計画内容を全職員が周知できる方法を検討していく。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8	1	保護者からの悩みや相談については、利用ノートも活用しながら話を聞ける体制をとっている。	相談内容については職員間でも情報共有を行い問題解決に取り組むようにしている。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	4	5	放課後等デイサービス利用者が1名である為、開催することが出来ていない。	放課後等デイサービス利用者が増えれば保護者会なども検討していく。その為、放課後等デイの対象者増に向けた取り組みが必要と考える。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
の 説 明 等	41	8	1	苦情窓口を設置し、早期改善できるように務めている。また、ミーティング内でも検討を行うようにしている。	苦情等があれば上司に報告し、早期解決に努めている。
	42	9	0	定期的に広報の発行を行っている。行事等については案内状を発行し、お知らせするようにしている。	子供に対しての会報はない為、今後は児童の方にスポットを当てた活動や支援についての特集を行うことも検討していく。
	43	9	0	個人情報の取扱いに十分留意するためにも個人情報保護や倫理についての研修を行っている。	個人情報の取扱いについては十分留意するように職員一同心掛けている。
	44	9	0	個別でのコミュニケーションツールを活用している。個別で接して児童の思いに気づけるよう心掛けている。	刺激に弱い児童や言語理解が難しい児童への説明が難しいことがあり、支援方法の工夫が必要である。
	45	4	5	コロナ以降感染症対策のため、なかなか実施する方向に持っていきかけていない。	周辺地域での連携については、周辺の他事業所と共に検討を行っている。新しい地区なのできっかけ作りを模索中である。
非 常 時 等 の 対 応	46	9	0	各種マニュアルの整備を行っており、マニュアルに沿って対応するようにしている。	ご家族様にマニュアル内容の周知ができていない。
	47	9	0	BCPを策定し、避難訓練や災害訓練などを定期的に行っている。	BCPは策定しているが、実際に非常災害が発生した場合どれ位活用できるかが未知数なので、訓練や見直しを行うことで活用できるものに近づけていく。
	48	8	1	事前情報を確認し、子供の状況把握が出来る。またその都度、薬情や予防接種の確認等も行うようにしている。	服薬については看護師を中心に把握しているが、全職員までは把握することができていない。
	49	9	0	利用開始前に保護者へ確認を行っている。	現在、アレルギーのある子供の利用はないが、そういった利用があれば確認を行っていく。
	50	9	0	研修等を実施し、安全管理が行われている。	安全計画の見直しなどを常日頃検討していく。
	51	8	1	支援会議などにより家族への周知が行われている。	今後、利用が増えた際にも引き続き周知を行うようにしていく。
	52	9	0	ヒヤリハットが発生して場合には、当日中に報告書を作成し、ミーティングで共有し、再発防止策を検討するようにしている。	以前は、忙しいなかヒヤリハット報告が出てこないこともあったが提出方法を改善し、以前より報告が多くなっている。
	53	9	0	虐待防止の研修も定期的に行っており、適切な対応ができるように務めている。	毎月1回以上、様々な研修を行っており、虐待防止に関する研修も年1回の実施である。より継続的で学びの機会を確保することが課題である。
54	8	1	身体拘束の研修も定期的に行っており、適切な対応ができるように務めている。	毎月1回以上、様々な研修を行っており、身体拘束の研修も年1回の実施である。より継続的で学びの機会を確保することが課題である。	